

1. 活動の概要

6月25日(火)、飯南町立頓原小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに島根県埋蔵文化財調査センターの職員から、青銅鏡について、遺跡からの出土状況や製作方法についての話をし、実際に金属鏡の製作体験を行いました。鏡の製作は鑄型に金属を流し込み、金属が冷えて固まった後にはサンドペーパーなどで鏡の表面を磨くことを体験しました。みんな一生懸命に取り組み、鏡面がきれいになるまで熱中していました。

鏡製作体験の途中には、飯南町内の遺跡の紹介や出土遺物の見学を行いました。校区周辺に多くの遺跡があることを学ぶほか、実際に町内で出土した縄文土器を手に取り、その手触りや重さを実際に感じていました。

2. 活動の様子



説明を熱心に聞いています。



溶けた金属を慎重に鑄型に流し込みます



飯南町で出土した縄文土器を見学しました



鏡がぴかぴかになるまで磨いています

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- 金属鏡を作ったことが心に残った。
- 昔の人は何日もかけて苦労して鏡を磨いていたことがわかった。
- やすりで鏡を削ることが心に残った。
- 金属を溶かして型に流し込むことが心に残った。
- 本物を見ることができてよかった。
- 鏡を作ることの大変さがわかりました。大変だったけど達成感があった。
- 昔の人が使っていた道具に興味がある。
- 勾玉を作ってみたい。
- 土器作りをしてみたい。

2) 担任の先生から…

○実際に昔の鏡の製作方法を体験させてもらい、本物の土器にさわらせてもらえたことがよかった。

パワーポイントや資料を用意していただいたのでわかりやすかった。

3) 埋文センターから

○小学校周辺の遺跡を紹介したことは、児童の皆さんにとって遺跡を身近に感じてもらうのに役立つのではないかと思います。

○金属鏡製作体験では、皆さん熱心に取り組み、きれいになるまで磨くことを止めない頑張りに関心しました。